

第 61 期 事業報告

平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日まで

当法人は、医療、保健、福祉、教育、その他より良い社会の形成に関する事業を総合的・一体的に行い、地域社会の福祉の増進及び地域住民の生活向上に寄与することを目的に、公益法人として第 1 期目をスタートしました。

上記目的達成の為、平成 26 年度事業計画の基本方針として

法人が運営する 3 病院とグループホーム、訪問看護ステーション各々の事業の技術と水準を向上させ、御殿場・小山町における医療や介護の中核的機能を果たす。

他医療機関・行政・施設との連携を一層強化し、急性期から在宅医療、介護までの一連のサービスを切れ目なく総合的に確保できるよう推進する。

広範囲な公益事業を各部門で積極的に取り組む。

これらの基本方針に沿って策定した事業計画に基づき、下記の公益事業を実施しました。

公益事業の内訳

1. 病院の運営
2. 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営
3. 高齢者のグループホームの運営
4. 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー、講演活動等
5. 医療人材の養成支援
6. 病院、施設等における各種相談助言

富士病院、富士小山病院、東部病院、訪問看護ステーションごてんば、グループホームごてんばの一体的運営を目指し、3 病院の連携の強化を図りました。また救急をはじめとする多種多様の疾患に対する診断と治療の精度向上に努め、より多くの患者様を受け入れる体制作りを目指しました。しかしながら各施設ともに、医師・看護師不足の改善はできず、特に富士病院は、入院予約の増加なども加わり、満床を理由に受入をお断りせざるを得ない状況も発生しました。常に患者様を受入出来るベッドを確保する為には、3 病院の連携推進と他施設とのかかわりを強化させ、退院を促進するなどベッドコントロールが重要であることを再認識しました。一方で公益性から、行き場のない患者様の受入も配慮しており、苦しい状況が続きました。

また二次救急については、御殿場市・小山町の 8 割を当法人が担当しました。

さらに災害対策については、理事長が地域の災害医療コーディネーターとして東部保健所より任命を受けたこと等から、3 病院が救護病院としての役割を認識するとともに、災害時医療救護活動の最重要拠点として活動しました。各々の病院にて災害医療

チームがトレーニングをはじめ、実際の救護活動をイメージした訓練を行政・消防署と連携して実施しました。

各病院の運営概況

富士病院の運営

富士病院は、救急患者の受入件数は、年間 1,025 件（昨年 1,097 件）でした。さらに沼津地区の内科 2 次救急の支援（広域救急）は年間 48 日担当し、救急車 63 台を受入れました。（うち入院 38 件）しかし広域担当日は沼津地区のみならず御殿場・小山の地域の 2 次救急も担当する為、沼津・三島・裾野・長泉町すべてを合わせると住民約 50 万人の救急医療を 1 人の医師で完璧にカバーできるはずもなく、遠方から運ばれた患者様の不満に加え、当院の医師・スタッフの疲弊が限界と達したことから、沼津医師会に新年度より月 2 回の担当に変更を申し出ました。内科以外にも外科は二次救急医療を引き続き週 2 日受け持ち、循環器疾患は 24 時間 365 日緊急カテに対応し、小児医療も、2 人の常勤医による可能な範囲の入院の受入、緊急透析など対応してきました。また緊急内視鏡についても看護スタッフの待機を設置し、検査、レントゲン、手術室、ME も夜間対応可能な体制で臨みました。

スタッフ教育に関しても同様に注力、医療水準のアップを図りました。しかし看護師不足により、7 対 1 を確保するために ICU 室の活用は一時中止しました。平成 27 年度中にはハイケアユニットとして再開させる予定です。

急性期医療以外にも地域で必要とされている医療の継続と診療内容の充実、診断の精度を上げるための医療機器等の整備など診療レベルの向上に努めました。

健診事業も全体的に増加し、出張健診も新たな企業が加わりました。検査結果に基づく診断、健康管理及び予防等実施し、治療にいたる包括的対応をおこない、地域住民の健康予防対策室的な役割を実践しました。

又、感染対策医療分野では、新型インフルエンザ等対策特別措置法における指定地方公共機関として、今後地域の中心的活動をしていかなければなりません。

在宅訪問診療は通院できない患者のために、訪問看護ステーションと連携して訪問診療を実施しました。高齢者の契約施設も増加し、高齢者の救急医療の重要性を再認識し、施設からの受入にも注力しました。特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、高齢者専用住宅等、連携施設への定期的な訪問診療も在宅訪問と合わせて実施し、在宅医療の推進に貢献しました。

以上の結果として、一日平均患者数 122 人（昨年 116 人）となりました。平均在院日数は 11.1 人（昨年 11.1 日）で昨年とかわりません。平均入院日当点は 6,350 点（昨年は 6,296 点）と増加しました。

医業収入については、外来収入が 1,850,973 千円（予算比 13.2%増：昨年度実績

1,564,146 千円)と大幅増加、入院収入が、2,881,595 千円(予算費 1.5%減:昨年度実績 2,726,989 千円)でした。保健予防活動は、158,878 千円(予算比 6.5%減:昨年度実績 147,371 千円)となりました。医業収益総額では 5,124,934 千円の収入を確保(昨年は 4,653,849 千円)、対予算 188,501 千円(予算比 3.8%増)の増加、昨年度実績からは 471,085 千円(10.1%)の増収となりました。

医業費用については、給与費 2,363,513 千円(予算比 6.1%減:昨年度実績 2,319,026 千円)となりました。材料費は 1,651,581 千円(予算比 13.7%増:昨年度実績 1,410,833 千円、委託費は 227,468 千円(予算比 20.4%増:昨年度実績 194,184 千円)経費は 727,328 千円(予算比 11.9%増:昨年度実績 598,928 千円)減価償却費は 142,330 千円(予算比 8.6%増:昨年度実績 150,818 千円)でした。医業収入は大幅に増加しましたが、経費も増大した結果となりました。

今期補助金収益として地域の医療機関とのネット上の連携強化を図る目的で地域連携画像システムを構築し、国から補助金をもらいました。事業費用は総額 43,561,300 円で補助金総額 22,168,000 円、固定資産総額 29,003,300 円(内ソフト代 12,772,000 円)構築費用 14,558,000 円でした。

富士小山病院

4 月より開設しました女性外来は、週 1 回半日ではありますが、年間で延べ 475 名の患者に対応してきました。また、介護療養病棟の平成 29 年度の廃止に対し、平成 27 年度の改定において強化型の機能を持つ療養病床のみが存続できる方針となり、その準備を始めました。損益に関しましては、小山町唯一の病院として、地域の皆様によりよい医療介護サービスの提供に努めておりますが、昨年度に引き続き、今年度も外来患者の減少(1 日当たりの患者数 平成 24 年度 176 人、平成 25 年度 165 人、平成 26 年度 156 人 平成 26 年度予算 170 人)となり外来収入が 390,634 千円(予算比 7.1%減)となった。主な理由は、昨年度後半のノロウイルス集団発生や大雪等の影響をひきずる一方で、近隣の新規診療所のオープンや病院の新装等もありますが、小山町の人口減少(平成 24 年 20,194 人 平成 26 年 19,338 人 4.3%減少)も大きく起因しているものと推測されます。一般入院に関しましては、外来減少により窓口は減りましたが、近隣の老健等介護施設の新設等により施設からの入院が増加し 273,974 千円(予算比 3.3%減)と昨年の水準を確保しました。反面、近隣の老健等介護施設の新設は、介護入院の入所の減員要因となり 320,528 千円(予算比 3.9%減)の計上となりました。しかし、本体の減収を健診予防接種(基本健診、マンモ、インフルエンザ予防接種等)や、補助金の活用(中小企業労働環境向上助成金他 2 件)等により医業収益は、昨年より若干ですが 270 万円(予算比 4.6%減)上回ることが出来ました。医業費用に関しましては、昨年に比べマイナス要因としては、消費税 8%の影響で 700 万円(予算比 6.6%減)退職引当金の積み上げ 730 万円(予算比 72.9%増)建物機材等の経年劣化による修繕費 330 万円(予算比 88.3%

増) 事務員産休によるその他委託費 260 万(予算比 21.7%増) 2,020 万円のコスト増となりましたが、今年度は、職員の退職、産休等で約 8 人の減員となり 3,600 万円(予算比 5.9%減) の人件費減となりましたが、その分職員への仕事量の負担が増加しました。その他コスト削減等も含め 2,300 万円(予算比 4.2%減) コスト減となりました。上記により最終利益、2,647 万円(予算比 16.1%減) 利益計上となりました。

東部病院

平成 26 年度の医業収益は、1,077,351 千円で、前期比 6,190 千円、予算比 99.9%で、当期損益は 23,315 千円、前期比 661,0 千円、予算比 1632 千円となりました。

外来全科は、延べ患者数 43,059 名(前期比 1,182 名) 一日平均患者数 137.8 人で、前期比 1.2 人の減となりました。入院全科は、年間延べ在院患者数が 9,561 人(前期比 654 人) 一日平均入院患者数は 27.4 人(前期比 0.6 人) となりました。

本年度の診療報酬改定では、従来認められていた、通算入院日数 90 日超えの透析患者等の平均在院日数計算除外が認められなくなったため、該当患者の入院基本料は療養病棟点数の適用になり大幅に引き下げられました。

入院患者の 45.0%、入院収益の 39.7%を占める透析医療を中心とした当院は、この診療報酬改定と、昨年就任した常勤透析管理医師の退職により、かなりの収入減は免れない状況でした。しかしながら、診療報酬改定は経過措置により算定適用が 10 月からとなり、医療区分の高い透析患者を多く受け入れることによって、入院透析の診療単価においては 10 月での前年同月対比で 1035 円のマイナス、通期では 1106 円のプラスとすることができました。

透析収益では 26 年度は外来が 46,274 万円(対前年比 + 13 百万円 延患者数 488 名) 入院が 14,879 万円(対前年比 2535 万円 延患者数 953 名) となりました。

当院の特徴の一つである『足外来』は、外来患者数は減少していますが(242 名) 入院患者数は増加(+ 170 名) し、入院収益比も 32.6%を占めるまでとなっております。

1-1 一般外来

富士病院の外来については、各種検査の精度向上・特に今期導入した 64 列 CT は画像がすばらしく鮮明で、各々の疾患に対し、診断・治療機能は着実に進み、またサテライト入力を導入、診察・スタッフの動線の改善により待ち時間短縮が進み、患者様のスムーズな受診に繋がった。しかし 1 割以上の患者の増加は待ち時間に影響することとなりました。富士小山・東部病院は

患者数横ばい。専門外来など特色を持った外来も実施した。

【平成 26 年度実績】() は昨年度実績

一般外来数

年間延受診者数 237,627 人 (昨年 233,347 人)

富士病院 149,128 (昨年 140,204 人) 富士小山病院 45,750 人 (昨年 48,606 人) 東部病院 4,2749 人 (昨年 44,537 人)

1 日外来平均患者数

富士病院 507 人、富士小山病院 156 人、東部病院 137 人 合計 800 人

1- 2 健診事業

一般健診、人間ドック、特定健診、婦人科健診、小児健診など幅広く当院の診療体制を活用した健診が行われた。

【平成 26 年度実績】

特定健診受診者数 3,068 人

富士病院 900 人 (793 人) 富士小山病院 1039 人 (1036 人)

東部病院 1,129 人 (1,077 人)

マンモグラフィ - 健診 2,016 人

富士病院 1,066 人 (1,100 人) 富士小山病院 489 人 (429 人)

東部病院 461 人 (598 人)

子宮ガン検診 1,242 人 (1,427 人) 富士病院のみ

1- 3 救急医療

富士病院では沼津・三島・裾野の内科広域救急担当を月 3 ～ 4 回実施した。

救急車受入件数は 富士病院 1,025 名 (1,097 名) 富士小山病院 150 名 (139 名) 東部病院 112 名 (108 名)

【平成 26 年度実績】

(救急センターからの転送・他地域・病院からの搬送も含む)

・疾患別 3 病院合計

心疾患	247 人 (280 人)	呼吸器疾患	194 人 (177 人)
消化器系疾患	136 人 (132 人)	脳血管疾患	69 人 (92 人)
小児救急	42 人 (66 人)	外傷系	49 人 (37 人)
中毒	19 人 (22)	不明	19 人 (5 人)
その他	512 人 (394)	合計	1,287 人 (1,205 人)

・休日・時間外救急対応件数 1,842 人 (2,316 名)

富士病院 1,529 人 (1,677 人) 富士小山病院 219 人 (226 人) 東部病院 206 人 (413 人)

・広域救急救急車受入件数 63 件 (昨年 61 件)

1-4 在宅訪問診療

高齢者の急病に対する医療・看護更には見取りの問題も踏まえ、当法人では前向きにこの分野での充実を推し進めてきました。安心して在宅・施設でその人らしい生き方が送れるよう訪問看護ステーションとも連携して支援してきました。

【平成 26 年度実績】

施設訪問診療件数 11 施設（8 施設）訪問診療患者数 313（240 人） 訪問診療回数 2,828（2,937 回）

1-5 医療協力・派遣・ボランティア

当法人は他の病院・医院や行政・学校・企業からも医療協力・医師や看護師、技師の派遣・ボランティア派遣の要請などに可能な限り受け、地域医療の向上と各種ボランティア活動を通じて助け合いの精神の普及に努めました。

【平成 26 年度実績】

- ・御殿場市救急医療センターへの一次救急医療代行（年 3 回）
- ・救急センターの当直スタッフ派遣
 - 小児科医師 50 日（52 日） 外科医師（28 日）
 - 放射線技師派遣 144 件（145 日）
- ・地域医療機関・施設への定期スタッフ派遣協力
 - 医師 富士宮市立・徳州会大和・他 5 施設
 - 放射線技師 3 施設（東富士病院・富士山麓病院他） 言語聴覚士 1 施設
 - 臨床検査技師 1 施設、理学療法士 1 施設
- ・医師会行事への医師・看護師派遣、緊急時受入
 - 予防接種・乳幼児健診（24 回）
- ・学校医 校数 8 校 校医出動件数 13 回（同数）
 - マラソン大会・体育大会など看護師派遣 3 日（14 日）
- ・診療協力（医師会経由含め催し物患者受け入れ）12 件（10 件）
- ・災害時ボランティア活動
 - リレーフォーライフ参加人数 2 人

募金活動金額（ユニセフ募金・ハートフル募金等）

63,206 円（35,000 円）

- ・地域防災訓練支援（看護師派遣）4 人（29 人）
- ・高校等への医療担当看護師派遣）1 件（1 件）

1-6 オープンシステム事業

地域に開かれた病院として、オープンシステムをいち早く導入し、地域全体の医療の質の向上に努めている。近隣の診療所・病院の医師が、当院医療機器を共同で

利用し、当院専門医の診断などを付けてお返しする等積極的に取組む。共同利用の医療機器は内視鏡・カテーテル検査・MRI・CT・ホルター心電図等広範囲であり、他病院・診療所における不足の部分を当会でカバーすることにより、地域で効率よく安全で質の高い医療を展開できることに貢献している。

【平成 26 年度実績】

他施設からの依頼

C T 依頼施設数	15 施設 (14 施設)	C T 件数	228 件 (191 件)
M R I 依頼施設数	12 施設 (14 施設)	M R I 件数	173 件 (149 件)
エコー依頼施設数	6 施設 (3 施設)	エコー件数	18 件 (23 件)
大腸内視鏡検査依頼施設数	12 施設 (10 施設)	大腸内視鏡件数	36 件 (17 件)
胃内視鏡依頼施設数	8 施設 (6 施設)	上部内視鏡件数	13 件 (18 件)
冠動脈造影依頼施設数	6 施設 (6 施設)	冠動脈造影件数	49 件 (13 件)
その他依頼施設数	6 施設 (9 施設)	その他件数	85 件 (74 件)
依頼施設数合計	65 施設 (62 施設)	依頼件数	602 件 (485 件)

1-7 専門領域

循環器医療

今年度より日本循環器学会の循環器専門医研修施設となり、植込型除細動器移植術、高速回転冠動脈アテレクトミーの施設基準を満たし、循環器内科領域の高度治療がすべてできる施設となりました。24 時間 365 日体制で循環器科医を配置し、緊急の心筋梗塞等にいつでもカテーテル治療の対応ができるスタッフ体制を整え、心臓バイパス術、弁置換術など心臓センターとしての機能を果たしてきました。心臓血管外科チームと合同で地域の心疾患をカバーする医療を提供しました。

【平成 26 年度実績】

急性心筋梗塞	76 例 (47 例)	救命率	100% (100%)
経皮的冠動脈形成術	565 例 (481 例)	心筋焼灼術	67 例 (36 例)
ペースメーカー埋め込み術	38 例、	埋め込み式徐細動器設置術	5 例、
心臓バイパス術等開胸術	23 例 (27 例)	腹部大動脈手術	3 例

小児科

当会の富士病院は、この地域で唯一小児科の入院ができる施設である。医師の待機は 24 時間 365 日態勢で急病患者に対応した。東海大学の派遣で 2 名の常勤医と 5 名の非常勤医師で対応してきました。

【平成 26 年度実績】

緊急入院件数	76 例 (115 例)	各種予防件数	1988 件 (1,779 例)
乳幼児健診	157 件	脳波検査	56 件

呼吸器内科

当地域で呼吸器疾患の専門的な診療ができる病院は、唯一富士病院だけである。平成 26 年度 睡眠時無呼吸疾患の検査を再開する予定。

【平成 26 年度実績】

在宅酸素療法患者数 139 人（89 人）

無呼吸症候群治療患者実数 258 人（227 人）

糖尿病内科

今年度、日本糖尿病学会認定教育施設に認定されました。チームで糖尿病指導にあたり、その管理に傾注し、また糖尿病の啓発活動の成果と考える。また糖尿病療養指導士を育てることも行う。病診連携で地元医師会の開業医の先生方と定期的に勉強会を開催、顔の見える関係で患者様の紹介ができるようになった。

【平成 26 年度実績】

糖尿病受診患者延数 6,124 人（1,882 人）

延べ受診患者数 11,549 人（12,022 人）

消化器内科・消化器外科

今年度、外科部長が交代し、新体制となった。又、新に荒井医師を内視鏡室長に任命し、外科を含め新に受け入れ態勢を整備した。

当法人では、昼間を中心に吐下血をはじめとする消化器疾患に対応する救急医療を実施した。又内視鏡を中心として癌の早期発見に努め、手術も積極的に実施した。また肛門科におけるジオン注射など特殊な手技も積極的に取り込み実施した

【平成 26 年度実績】3 病院合計

上部内視鏡検査 2,986 件（2,746 件）

大腸内視鏡検査 1,314 件（1,064 件）

ポリープ切除術 171 件（140 件） E R C P 53 件（30 件）

E S D 2 件（5 件）吐下血緊急入院 34 件（31 件）穿孔 2 件（3 件）腹腔鏡下胆嚢摘出術 31 件（39 件）結腸癌切除術 35 件（15 件）

膵頭部癌切除術 1 件（9 件）胃癌切除術 8 件（9 件）

イレウス 13 件（16 件）虫垂炎 9 件（11 件）他 25 件、

消化器系手術合計 288 件（258 件）全麻症例 235 件（233 件）

乳腺外科

検診から診察、検査、手術、化学療法、リハビリ、患者会による心のケアに至るまで一貫した診療体制で、乳がん撲滅のために検診・診療・相談指導・啓蒙活動などを実施した。

【平成 26 年度実績】

乳房切除術（温存）31 件（33 件） 乳腺腫瘍摘出術 16 件（28 件）

マンモグラフィー検査 3,276 件 (3,020 件)

泌尿器科

当地域で唯一の泌尿器科の入院ができる施設であり、皮膚排泄機能認定看護師による指導も実施している。癌手術症例も多く、化学療法患者・結石破砕治療患者も多い。

【平成 26 年度実績】

膀胱経尿道的切除術 6 件 (27 件) 前立腺肥大大切除術 14 件 (18 件)

その他 87 件 (107 件) 尿管結石破砕術 105 件 (21 件)

手術件数 212 件 (152 件)

眼科

当地域で、眼科の入院や白内障手術に対応できるのは、当法人の 2 病院のみであり、2 名の常勤専門医が診療を行っている。

【平成 26 年度実績】

白内障手術 806 件 (861 件) 緑内障手術 4 件 網膜光凝固術 37 件、硝子体注入・吸引術 46 件

人工透析

御殿場市・小山町に裾野市において当法人は唯一腎臓内科専門医による導入管理から急性期の合併症に対応。さらには外来透析患者の急変（骨折・心疾患・消化器系・脳疾患等）に緊急透析が出来る体制を 24 時間 365 日整えている。今年度は導入患者が多かった。

【平成 26 年度実績】

入院透析 平均 27 人 (41 人) 延べ日数 4,424 日

外来透析 201 人 (183 人) 延べ透析回数 29,622 回

内夜間透析 22 人 (26 人)

透析導入件数 41 人 (46 人)

入院受入回数 219 回

死亡件数 49 人

1-8 療養病棟

富士小山病院療養病床 60 床利用率 95% (昨年 96.6%) 今期も生活困難者・生活保護受給者の受入を積極的に行ったが、今期は減少した。

【平成 26 年度実績】

月平均入院患者数 57 人 (58 人)

内生保患者 3 人 (14 人)

1-9 医療従事者による調査研究・学会発表

臨床より得られた研究課題について、研究し、得られた成果を学会・研究会で発表し、医学の発展に貢献した。

【平成 26 年度実績】

医師 15 件 (12 件) (日本腎臓学会、他)

看護師 7 件 (10 件) (日本消化器内視鏡技師学会他)

その他 5 件 (3 件) (日本摂食嚥下リハビリテーション学会・給食協会 他)

1-10 一般入院

富士病院の増改築工事完成により、使用可能なベッド数が増加しましたが、救急患者、入院予約の増加、看護師不足などにより部屋の確保に苦慮しました。

【平成 26 年度実績】

入院延べ患者数

1 日平均取扱患者数 167.0 人 (164.1 人)

富士病院 122.0 人 (116.1 人) 富士小山病院 18 人 (19 人)

東部病院 27 人 (29 人)

平均在院日数

富士病院 11.5 日 (11.3 日) 富士小山病院 13 日 (9 日)

東部病院 11 日 (15 日)

年間新入院件数 4,781 人 (4,616 人)

富士病院 3,582 人 (3,460 人) 富士小山病院 759 人 (769 人)

東部病院 440 人 (387 人)

2 . 訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営

ステーションの理念である「その人らしさを大切にする看護」のもと家族と共にその人らしく在宅で過ごしたいという願いに寄り添い、御殿場市、小山町地区唯一の訪問看護ステーションとして幅広い訪問看護活動を行いました。また、御殿場、小山地区は、開業医、勤務医が非常に少ない為、医療情報を地域に伝えるという役目も担ってきました。

富士病院の訪問診療に同行し、利用者、家族、主治医とのパイプ役として在宅医療を支えました。在宅における看護・介護の必要性は高く、小児から高齢者まで多種多様な疾患や医療処置に 365 日 24 時間対応しました。

訪問看護に必要な訪問看護指示書は、法人 3 病院以外の他病院からも多く出ています。

平成 25 年度の利用者数は、月平均 95 名で訪問件数は 5649 件でしたが、平成 26 年度の利用者数は、月平均 94 人、訪問件数は 5,854 件とほぼ同じ利用者数を確保しております。マイナス要素として多数の老人施設の新設に伴う入所や在宅でタ

ーミナル期を過ごすため訪問看護を開始しても、亡くなってしまい訪問看護の継続に繋がらないケース等今後も増加すると予測されますが、高齢者の増加が続き、在宅医療に対する国の誘導施策もあり、訪問看護の需要はなくなり、今後も、家族の介護負担を考慮し、在宅生活をその人らしく継続できるよう支援を続ける事が重要です。同時に医師を含む多職種との連携を円滑に行うことにより、地域の方々の要望に答えられる体制作りを図っていきます。

在宅療養を継続する為に、在宅でのリハビリテーションの必要性も増し、言語聴覚士、理学療法士の需要も増えました。それに、応えるために、理学療法士は、機能訓練強化、言語聴覚士は、嚥下訓練、誤嚥性肺炎予防等訪問リハビリテーションを積極的に取り組みました。

【平成 26 年度実績】

(地域連携活動)

- ・ サービス担当者会議出席
- ・ 静岡県訪問看護ステーション協議会主催の訪問看護電話相談事業
- ・ 御殿場看護学校へ講師派遣
- ・ 訪問看護実習生の受け入れ（御殿場看護学校・がんセンター）
- ・ 職場体験（御殿場西高校）

(居宅介護支援事業所)

- ・ 介護支援専門員（ 5 人 ）在籍し月 1 回の介護支援専門員連絡協議会に出席
- ・ 御殿場市介護認定委員（ 1 人 ）として介護認定委員会に参加し介護認定に携わっている
- ・ 介護認定調査員（ 2 人 ）として、認定調査施行
利用者数 1133 人（ 1152 人 ）
指示書依頼医療機関 29 施設（ 28 施設 ）
訪問年間回数 5,854 回（ 5,649 回 ）
夜間休日相談回数年間 79 回（ 85 回 ）
夜間休日出動回数 59 回（ 59 回 ）地域連携サービス会議 92 回（ 59 回 ）参加
また、併設の居宅介護支援事業所では、介護支援専門員（訪問看護師と兼務）
5 名が訪問看護ステーション利用者の要請に基づいてケアプラン作成に当たり、介護サービスの提供の確保に努めました。

【平成 26 年度実績】

- ・ ケアプラン作成数 3 件

3 . 高齢者のグループホームの運営

“ グループホームごてんば ” は、開所から 13 年になります。入居者の身体的体力の低下・認知症の重度化が進む中、さまざまな事態に対して、どうしたらよいか、スタ

ツフ間で話し合いを重ね、柔軟に対応して参りました。

年間で退居者 1 名・入居者 4 名で、退居者 1 名は病院に入院後、グループホームへ戻ることをご家族も強く希望していましたが、病院の判断で療養型施設への転院となりました。市内の介護施設の増加に伴い、グループホームへの入居希望者が減少していく中、新しい入居者の受入をする為、施設のリフォームを行い、居室代の価格見直し等行って、市町村や各種関係者と連携をとるなど努力を重ねました。重度化しても、家庭的な環境の中で日常生活の援助を行い、認知症の進行を穏やかにし、訪問看護ステーションと連携して健康管理を行いながら、明るく楽しい生活を送って頂いています。

地域密着型サービス事業所として、運営推進会議を年間 6 回開催し、委員の皆様の様々なご意見を参考にさせて頂き、サービスの質の向上を図っています。運営推進会議を通して、地域と連携に努めました。

研修研究活動

職員の研修においては、様々な研修に参加し、研修後は内部研修を兼ねた報告会を行い職員のキャリアアップを行いました。

平成 26 年度研修参加

コンプライアンス講座	1 人
認知症高齢者支援講座	1 人
介護リーダーの為の指導力養成講座	1 人
感染症講座	3 人
福祉職のための文章力向上講座	1 人
リスクマネジメント講座	1 人
介護技術基礎講座	1 人

地域貢献活動としてグループホームごてんば便りを発行し、家族の方々、地域・連携施設等に配布して活動報告を行いました。地域の方からボランティアの参加希望があり、積極的に受け入れ福祉の心を共有して頂きました。近隣の御殿場聖マリア幼稚園との交流を通じて、幼児から歌やお花などのプレゼントを頂き、入居者の笑顔が印象的でした。介護についての疑問・相談を無料で受け付け対応しました。

【平成 26 年度実績】

- ・入所者平均人数 3.67 人(6.2 人)・・・定員は 9 人
- ・介護度 5 は 0.58 人(0.25 人) 介護度 4 は 0.42 人(3.67 人) 介護 3 は 2 人(2.33 人) 介護 2 は 0.58 人(0 人) 介護度 1 は 0 人(0.5 人) 要支援 0.08 人(0.33 人)
- ・運営推進会議 6 回
- ・お花見などの催し年 33 回(34 回)
- ・ホーム便りの発行 6 回

4 . 一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー・講演活動等

4-1 セミナー・講演活動

健康長寿社会づくりのため、地域住民を対象とした健康管理や病気の予防についてのセミナーを主催したり、諸団体等が主催する講座に医師、看護師等を講師として派遣し、住民の医療や健康についての知識の向上に努めた。

【平成 26 年度実績】

医師（市民健康大学、糖尿病教室など）10 回（5 回）、看護師 2 回（3 回）、コメディカル 33 回（42 回） 合計 45 回（50 回）

4-2 健康キャンペーン

地域住民の健康増進を図ることを目的とし、当法人の看護師及び医師の協働によるキャンペーンを実施した。

相談コーナーの開設、血圧測定、血糖値チェック、血流測定、試供品の提供等病院内や市民交流センター等を会場とし無料で行なった。このほか、地域医療や生活習慣病に関する普及啓発も行いました。

【平成 26 年度実績】

・健康フェスタふじおやま 小山町総合文化会館	147 人（58 人）
・しゃくなげ祭（東部病院）	150 人（116 人）
・減災の日催し（富士病院）	99 人（75 人）
・東部糖尿病予防キャンペーン	110 人（160 人）
・まちの保健室	18 人（20 人）
・ウォークラリー等（糖尿病キャンペーン）	70 人（50 人）

5 . 医療人材の養成支援

5-1 医療関係の実習生受入指導

病院では、大学や専門学校からの医学生、看護学生等の実習受け入れ、救急救命士の実習受け入れを行い医療に係る人材の育成を支援する。

また、訪問看護ステーションでは、静岡県立静岡がんセンターと連携して認定看護師教育課程の緩和ケア実習指導を担当し、看護師の資質向上に貢献する。

特に地元御殿場市医師会が運営する御殿場看護学校の運営等にかかわり、学校の講義においては当法人の医師、看護師等有資格者 28 人を派遣し、看護師養成について最大限の協力を行ないました。

【平成 26 年度実績】

・昭和大学・東海大学他から医療関係学部の実習を受け入れた。

医学部 12 名、歯学部 6 名、薬学部 15 名、臨床検査技師 1 名、臨床工学士 2 名、理学療法士 6 人、言語療法士 1 人、看護師 8 人、

社会福祉士 1 人 救命救急士 12 人

・御殿場看護学校他

延実習人数 832 人

延実習日数 4,169 日

非常勤講師人数 31 人

担当時間数 1.083 時間

5-2 セミナー・講演活動

地域の医療従事者の資質向上やより高度な知識の習得のため、当法人、医師会や看護協会等の関係団体が主催する医療従事者を対象とする研修会に当法人の医師ほか医療従事者を講師として派遣した。又公開講座として地域病院・医療機関を対象に公開講座を開催した。ホームページにも掲載し広く呼びかけた。

【平成 26 年度実績】

・医師による講演（医師会・薬剤師会など）38 回

・看護師による講演 7 回〔内視鏡技師他〕

・メディカルによる講演〔放射線技師会・超音波技師等〕6 回

合計 51 件(昨年は 47 回)

5-3 出前授業

地域の中学校・高等学校に出向き、医療に関わる仕事の意義等について講義を行い、将来の看護師ほか医療従事者を目指す生徒が増えるよう啓発活動や命の大切さの教育をするなど出前講座を行う。医療従事者について、さらに興味を持った若者に対しては、「5-5 職場体験実習」に参加する道を開いている。今期は学校から依頼がなかったため実施しなかった。平成 27 年度は実施計画あり。

5-4 職場体験実習

地域の中学校、高校、社会福祉人材センター等が行っている職場体験学習を積極的に受け入れました。

【平成 26 年度実績】

高校生高校数 7 校 学生数 17 人

中学校数 6 校 学生数 16 人

他団体 4 団体 30 人

5-5 看護学生への奨学金の貸与

御殿場看護学校等の看護師養成施設学生を対象に、当法人の創案により地域の病院が連携して奨学金貸与を実施しました。

【平成 26 年度実績】

・御殿場看護学校(3 学年定員 96 人)の学生 19 人、

・その他看護学校生 3 人

6 . 病院、施設等における各種相談助言

6-1 医療についての技術、各種の相談・助言

当法人の地域医療ネットワーク（他の病院、開業医、高齢者施設等を含むネットワーク）を活用して、患者と家族にとって最適な医療を受けられるように、住民を対象として相談助言を行なっている。医療機関や施設からは、摂食障害に関する相談、子供の発育・病気に関する相談、グループホーム・個人からは、認知症に関する相談、在宅支援ナースに関する相談、通院中の患者または家族からの就職相談・社会資源活用のための相談、退院後の生活相談・経済的な相談、患者の家族からは、排泄障害に関する相談等がある。基本的にはすべて無料に対応した。

【平成 26 年度実績】

地域医療連携室経由相談件数	8,810 人（6,576 件）
他院より紹介	3,578 人（3,995 件）
他院への照会介護棟に関する相談件数	2,132 人（2,269 件）
ケースワーカー相談件数	2,650 人（3,723 件）
介護棟に関する相談件数	1,339 人（1,994 件）
医事課相談件数	306 人（307 件）

6-2 生活困窮者等への支援

経済的な理由で必要な医療サービスを受ける機会が制限されないよう、生活困窮、心身障害、高齢等の患者に対して、病室料差額等の減額・免除の制度を実施する。

平成 12 年 1 月から子育て世代の負担軽減のため小児科の病室料は無料とした。

【平成 26 年度実績】

生活困窮者の室料等の減免件数	246 件
生活困窮者の室料等の金額	7,775,220 円
小児科室料の無料化	3,371,760 円
老人施設居室	1,089,521 円